

# 金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和六年九月一日発行 第二二六号

檀信徒の皆様こんにちは。台風十号で被災された皆様にお見舞いを申し上げます。大分県内を直撃した台風でしたが、お寺に大きな被害はなく、安堵しております。皆さまに影響はなかったでしょうか。

先月は八月三日のお盆の大掃除を皮切りに、棚経、合同供養、千巻心経、盆踊りなど、コロナ禍でお休みしていた行事も六年ぶりに復活し、盛況のうちに終えました。皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。

さて、先月号でご案内いたしました樹木葬ですが多くの方からご質問をいただきましたので、改めてご説明させていただきます。当寺には納骨堂もありますが、屋外のお墓や自然の中で眠りたいというご希望をお持ちの方もいらつしやいます。少子高齢化が進み、お墓の継承や管理が難しいというご家庭もいらつしやいます。このような背景から、自然に還ること（合祀）を前提とした樹木葬を、お寺の墓地の一区画に設けることといたしました。

樹木葬は、骨壺を二個または四個収めることができる二種類を予定しております。それ以上の場合、麻袋に移して埋葬することも可能です。また、この度の樹木葬の特徴とし

ては、ご家族だけでなく、親しい友人と一緒に埋葬する事も可能といたしました。

樹木葬の費用は、三十年間の管理費と合同供養料を含め、二個納骨で五十万円、四個納骨で百万円を予定しております。ただし、物価の上昇により、若干変更になる可能性もあるかもしれません。

現時点ではペットの納骨は禁止と考えていますが、ご要望があれば総代会議で検討させていただきます。

十月八日（火曜日）十四時より  
檀信徒会館において「法話の会」

仏教では、全てのものは変化していくという「諸行無常」の教えが説かれています。私たちの生活様式が大きく変化したように、お墓に対する考え方も多様化しています。

かつては、親を介護施設に預けることに罪悪感を持つ人も多かったですが、今では自ら入居を希望する方もいらつしやいます。このように、時代とともに価値観は変化していきます。

これらと同様に供養の考え方も多様化してきました。その中で気になるのが「子供への負担を減らしたい」という言葉です。私はお盆やお彼岸、年末の前に先祖と歴代の住職のお墓を二十基近く掃除するので気持ち分かんなくありません。しかしながら、お墓掃除や供養などをすると「今年も無事にお盆を

迎えることが出来る」「年越しが出来る」などの思いも生じて、感謝の気持ちを表す大切な機会だと考えています。

また、故人を偲ぶことで心の安らぎや慰めにも到り、日ごろから見守られている事を改めて実感します。お檀家さんの中には年中行事として、お墓参りでお会いする事を恒例としているご家族、ご親族もいらつしやいます。

負担とは何でしょうか？経済的負担、時間的負担。他にもあるかもしれません。個人的所有するものを他に費やす事を「負担」とした時、子育てやお世話を負担と感じてしまえば、少子化には歯止めがかからず、日本の未来も明るくないと私は考えます。それと同様にご供養を「負担」と考えるか「機会」と捉えるかの違いで個人や家庭の在り方も大きく異なっていくのではないのでしょうか。経済的時間的な負担が少しでも軽くなればと思います。納骨堂や今回の樹木葬の建立を計画しています。物事の捉え方や考え方を一度見直す機会にして頂けたらと思います。

お釈迦さまの説く仏教は自然の摂理でもあります。根の張らない樹木は生い茂ることはありません。子供や孫、子孫の繁栄を願えばこそ、目には見えなくても先祖のご供養やお墓参りなどを「負担」ではなく、有難い「機会」として伝えて頂きたいです。日常の出来事を負担と考えるか、機会やご縁と考えるかで人生の見え方は大きく変わってきます。合掌